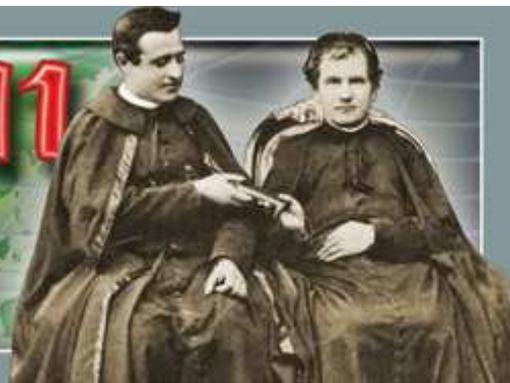


CAGLIERO 11

カリエロ11

サレジオ会宣教ニュース N.63 - 2014年3月

サレジオ会宣教部門によるサレジオ会共同体・サレジオ・ミッションの友人のための通信



サレジオ会員の皆さん、
サレジオ・ミッションの友人の皆さん！

第27回総会は、世界各地から来て6週間を共に過ごす220人の会員の、大きな共同体を作り出しました。何と多種多様な豊かな文化、言語、信仰体験、カリスマでしょう、皆が今日のドン・ボスコの顔をモザイクのように創り上げているのです！ 今、実に多くの言葉で、共に振り返り、確認し、夢を見、計画する時です！ この3月11日、私は宣教地へ行くために祖国を逃れた30周年を記念し、「ありがとう」と言いたいと思います。この12年は最高評議会でご過ごしましたが、第26回総会で私のモットー、「皆をイエスのために、イエスは皆のために！」を分かち合ってから6年がたちました。世界各地で宣教の文化の成長を育むすべての方々に、心から「ありがとう」と申し上げます：

すべての会員に(管区長、養成担当者、聴罪司祭、霊的指導者)。この6年、サレジオ会の56の管区で、200人の新たな宣教師のうちに宣教の熱意を呼び覚まし、同伴してくだ

いました。

管区宣教促進担当者の皆さん(そしてそのチーム)。熱心に(多くの方と協力しながら)宣教の炎が燃えつづけるようにしてくださいました。

世界宣教諮問委員会の皆さん。提案、インスピレーション、評価によってさまざまな歩みを触発し、同伴してくださいました。

宣教事務局、宣教のためのNGO(特にDBネットワーク)、PDOの責任者、スタッフの皆さん。サレジオ・ミッションにおける疲れを知らない働きと奉仕に感謝。

歴代宣教顧問の皆さん(2010年に帰天したバーナード・トーヒル神父、ルカ・ヴァンロイ司教、ルチアノ・オドリコ神父、フランシス・アレンチェリー神父)、この6年、宣教部門で一緒に働いてくださった皆さん(ピエロ・サンティリ神父、ディオニジオ・パチェコ神父、ブラシド・カラヴァ神父、スタニスワフ・ラファルコ神父、ジョゼ・アニクジカティル神父、アルフレド・マラヴィラ神父)。

各地を訪問したときに会った多くの宣教師会員の皆さん。特に、困難な地(気候、社会・政治情勢、差別、抑圧、不安定な状況)で暮らし、日々、自分の最良のものを捧げておられる皆さん。

宣教への招きに勇気と惜しみない心で応えた多くの若い宣教師の皆さん。カリエロ11を通して体験を分かち合ってくださいました。

多くの会員、サレジオ家族の皆さん。カリエロ11は皆さんのために誕生し、この5年のあいだ続いてきました。特に翻訳者の皆さん(パチェコ神父、ヒラリオ・パッセーロ神父、アンジェロ・ビズ神父、ルネ・ダシー、ルネー・サガー)、編集長(マラヴィラ神父)、レイアウト担当(ルチアノ・アカレーセ)、そして各地の言語での制作と配布に協力した多くの方々。



ありがとうございます！ 私たちは共に、フランシスコ教皇の望まれる宣教する教会となるために、ささやかな貢献ができました！



Václav Clement
宣教顧問
ヴァツラフ・クレメンテ神父

母は祈った「宣教師の息子をお与えください」、 神が下さったのは「空飛ぶ司教」だった!

2 人の宣教師が講師を務める黙想会に参加した母は、「宣教師の息子をお与えください」と祈りはじめました。私の宣教師の召命は、こうして私の命が宿る前からすでに植えられたのです!

主は母の祈りを実現されるために準備されていたのでしょうか。初聖体のとき私は決心しました。「いつか宣教司祭になりたい」。それから何年もたって修練期のとき、神の僕カルロ・ブラガ神父が私たちを訪ね、始まったばかりのフィリピンのサレジオ会に志願する宣教師を求めました。呼びかけに応えた中から私たち3人が選ばれました。

私は宣教師としてフィリピンですばらしい34年間を過ごしました。ユースセンターの所長としての最大の喜びは、マニラの貧しい地区マングルヨンの貧しい人々と若者の中で意義のある存在となる

ために共同体と共に働くことでした。後に、ドン・ボスコ高校の霊的指導者として、若者たち、特に最も問題を抱えた若者たちの信頼を受けたことも私にとって喜びでした。どこでも、学生の告解を聞きました。運動場でも。彼らの中で回心といやしの奇跡を目の当たりにできたことを感謝しています。

フィリピン北管区の管区長としての奉仕では、献身的な会員や信徒・協働者と共に働きました。彼らは生徒たちの生き方に大きな影響を与え、サレジオ会事業にしっかりと土台を据えました。会員たちの宣教の勇気、熱意、ダイナミズムは、第二の故郷を後にし、「沖へ漕ぎ出し」ソロモン諸島へ行くようにとの長上たちの招きに応えるよう、私を勇気づけてくれました。

私は1999年からソロモン諸島で働いています。2007年にはギゾの司教に任命されました。以前はドミニコ会によって全面的に支援されていた教区です。最大の挑戦は、7つの小教区、100以上の宣教拠点がそれぞれ孤立していることです。司祭が年に一度やっと行けるほどのこれら多くの共同体で、カテキスタたちが信仰の火をともし続けてきました。遠隔地の拠点をより頻繁に訪問できるよう、私は小型飛行機の操縦を覚えなければなりません。こうして私は「空飛ぶ司教」と呼ばれるようになりました。創立から50年たった教区は、教区司祭が2人、神学生が6人しかいません。他の教区から10人の教区司祭を派遣してもらっています。数名のドミニコ会士と3名のマリスト会士を除いては、教区にほかの修道会はありません。来てくれるように招いたほかの修道会からはいずれも断られました。この教区に来てくれるよう繰り返し要請していますが、サレジオ会からの返事はまだありません。

挑戦は数多くありますが、教育の機会の貧しさはその最たるものです。小神学校に入るための最低限の基準に達する人がいないため、教区の神学生の数はとても少ないのです。医療サービスは何もありません。2007年の地震と津波は、教区の教会、学校、診療所を破壊しました。そのため、Don Bosco nel Mondo基金によって開催されたCorsa dei Santi 2013に感謝しています。教区の保健センターの建設と運営のために支援をしてくださいました。しかし何よりも、私はこの群れの人々が大変感謝しています。一日一日を生きること、忍耐強くなること、持っている少ないもの、必要なものだけで満足することを教えてくれたからです。

イタリア出身、ソロモン諸島の宣教師
ルチアノ・カペッリ司教

(http://www.youtube.com/channel/UC4xYHhr-vFsm_r9-v0XybKg)



サレジオ会の宣教の意向

南アジアのサレジオ会の宣教召命のために(宣教志願院)

多くの若いカトリック信徒が、自分の地域の状況を超えて心を開き、世界のほかの国々(古いキリスト教国を含め)に福音を広めることに貢献するよう、主から光を与えられますように。インドの2つの宣教志願院が、南アジア地域のすべての管区から多くの召命を得ることができますように。

インドの状況:カトリック信徒として少数派であり(人口のうちの1.8%)、また国内の各地で迫害があるにもかかわらず、教会は強い宣教の精神を持っています。今日に至るまで、何千人もの宣教師がインドから世界の168の国々へ派遣されています(アフリカだけで2000人!)。サレジオ会は、この宣教師たちの養成のため、2つの宣教志願院を開設しました(18-20歳の若者のため)。志願者たちが国を後にし、世界各地で福音を広めるため、貧しい青少年の教育のために働くように呼ばれていると感じますように。2011年以来、シラジュリとチェンナイで、何十人もの若者が宣教師としての養成を受けています。

